房丸桜町遺跡

地域活力基盤創造交付金事業（市道００－１０４号線歩道整備工事）
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１０．３

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

例　言

1　本報告書は地域活力基盤創造交付金事業（市道 00 － 104 号線歩道整備工事）に伴い実施された「房丸桜町遺跡」（市遺跡コード 21 G 69）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　発掘調査および整理作業は前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導のもと、技研測量設計株式会社がこれを実施した。

3　発掘調査および整理作業の体制は次のとおりである

遺跡所在地	群馬県前橋市房丸町 19 － 2 ほか
調査担当	中村岳彦　佐野良平　小宮山達雄　瀬田哲夫　前田和昭（技研測量設計株式会社）
整理担当	中村岳彦　佐野良平
発掘調査期間	平成 22 年 1 月 18 日～平成 22 年 2 月 24 日
整理・報告書作成期間	平成 22 年 2 月 18 日～平成 22 年 3 月 12 日
発掘調査参加者	石川輝子　内島勝義　遠藤好則　遠藤逸子　大川悦子　大久保柾太郎　岡野　茂
	神沢昭三　木暮孝一　佐藤和彦　佐藤文江　高橋一巳　田島秀光　田部井美砂子　角田耕二
	戸張泰義　長岡　保　西潟　登　間庭啓治　三原一重　矢内司郎　矢内ヒロ子　湯浅澄子
整理作業参加者	須藤香織　髙山　愛　瀧澤佳子　長田友香　福島禄子　堀越晴子　山下雅江

4　本書の編集は佐野が行い、原稿執筆はⅠを神宮 聡（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）、Ⅱ～Ⅴを佐野、Ⅴ・Ⅵを中村が担当した。

5　本書はデジタル編集・組版により作成し、その作業は前田、大川明子（技研測量設計株式会社）が担当した。

6　本調査における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。

7　下記の機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します（敬称略）。

山下工業株式会社

凡　例

1　全体図及び遺構平面図に示した方位は北に座標北を表し、グリッド座標については国家座標（日本測地系）Ⅸ系の X=37868.0000・Y= － 64912.0000 を基点に X0・Y0 の原点を設け、4 mピッチに経線を X、緯線を Y として番付して呼称した。

2　挿図は国土地理院発行 1/25,000『前橋』『高崎』『伊勢崎』『大胡』を使用した。

3　各挿図の縮尺は、それぞれに付してある。

4　遺構名称は、古墳～平安時代の竪穴住居：H、竪穴状遺構：T、掘立柱建物跡：B、溝：W、土坑：D、井戸：I、ピット：P、性格不明遺構：Xである。

5　表中の計測値については（　）は現存値を表す。

6　遺構図、遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。

遺構図……硬化面　灰層

遺物実測図……須恵器（還元焔焼成）　灰釉陶器

6　主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-A（浅間 A 軽石：1783）、As-B（浅間 B 軽石：1108）、As-C（浅間 C 軽石：4 世紀初頭）

目　次

例言・凡例

Ⅰ　調査に至る経緯……3

Ⅱ　遺跡の立地と環境……3

Ⅲ　調査の方法と経過……4

Ⅳ　基本層序……4

Ⅴ　遺構と遺物……5

Ⅵ　まとめ……16

写真図版・抄録

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、地域活力基盤創造交付金事業（市道 00 － 104 号線歩道整備工事）に伴い平成 21 年 2 月 3 日に実施した試掘調査結果を踏まえ、平成 21 年 11 月 25 日付けで前橋市長 高木政夫（道路建設課）より埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 戸塚良明 (以下「調査団」という。) に発掘調査実施について協議を行った。しかし、調査団では既に市内数ヶ所において直営による発掘調査を実施しており、調査団直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託したいとの回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成 22 年 1 月 7 日付けで前橋市と調査団との間で発掘調査業務契約を締結し、その後、1 月 14 日付けで調査団と民間調査組織である技研測量設計株式会社 代表取締役社長 嶋田大和との間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査開始に至る。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

地理的環境

本遺跡は前橋市中心街から南東へ約 6.5 ｋｍに位置し、伊勢崎市と玉村町との市境に近い。北約 650 ｍには県道 27 号線が東西に、南約 400 ｍには北関東自動車道が東西にそれぞれ走っている。本遺跡は前橋台地上に立地する。前橋台地上には利根川をはじめ多数の中小河川が南流しており本遺跡周辺でも東約 300m には藤川、西約 900 ｍには端気川があり共に南東流し下流で利根川と合流する。河川によって形成された微高地には集落、後背湿地には広範な生産適地が存在している。現在でも微高地には宅地が造成され、後背湿地は主に水田として利用されている。

歴史的環境

本遺跡が立地する前橋台地南部は近年の北関東自動車道や県道の開発等に伴う発掘調査の増加によって当地域の歴史が徐々に明らかになっている。以下では本遺跡周辺における各時代の概要について述べる。

前橋台地上において旧石器～縄文時代の遺構は非常に少なく遺構が確認されるのは稀である。徳丸仲田遺跡（27）で確認された縄文時代草創期の微隆起線文土器片、西田Ⅲ遺跡（15）の有舌尖頭器などの生活の痕跡等が確認できるものの遺跡数は少なく、弥生時代においても同様である。赤城山南麓に概期の遺跡が多くみられるように当時の人々は山寄りの台地や丘陵上に居住していたと考えられる。

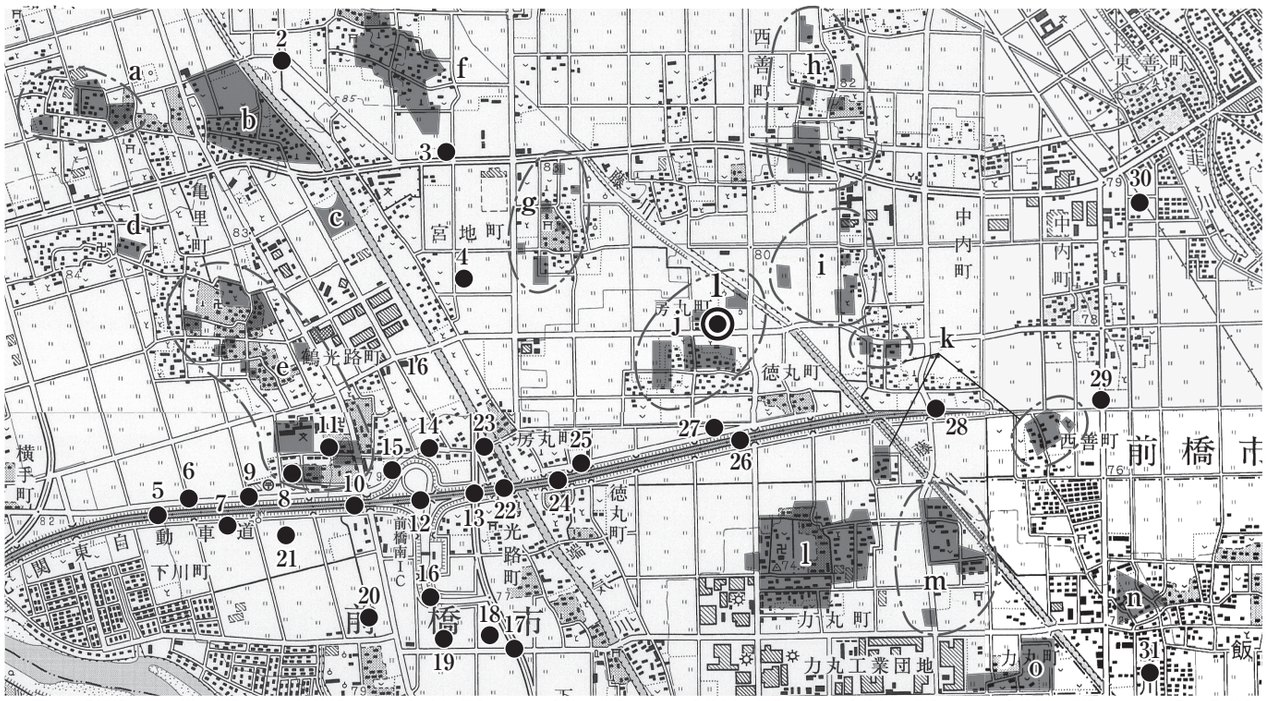
古墳時代になると前橋台地上の遺跡が急増する。これは水田開発と関係しており前橋台地上を流れる中小河川の豊富な水源を求めて人々が移り住み、広範囲に亘る農地開拓を行った。古墳時代前期においては点在する微高地に集落を形成し、中・後期になると洪水の被害が少ない台地へと集落を移したと考えられる。

奈良・平安時代になると再び微高地上に集落を形成し居住・生産域の拡大が図られた。天仁元（1108）年に浅間山が大噴火し、火山噴出物が上野国のみならず近隣諸国にまで降り注ぎ、とりわけ高崎・前橋・伊勢崎では厚く堆積し田畠や用水路は埋没した。当遺跡周辺でも As-B 軽石によって埋没した As-B 下水田が広範囲で確認されており、「国内の田畠が壊滅」（『中右記』）したとの記録を裏付けるものとなっている。また As-B 下水田は方格地割の条里水田であり、本遺跡周辺地域でも条里地割の推定が行われている。

中世になると高崎市東部から前橋・伊勢崎市全域を含んだ地域に百を超える数の環濠遺構群が点在する。本遺跡も含んだ周辺の微高地のほとんどに存在が想定される。発掘調査においても徳丸高堰遺跡（24）、鶴光路榎橋遺跡（22）、西善尺司遺跡（28）、中内村前遺跡（29）、前田遺跡（31）で環濠屋敷跡が確認されている。

参考文献

山崎　一　1978 『群馬県古城塁址の研究』上巻　群馬県文化事業振興会
群馬県埋蔵文化財調査事業団　2001 『西善尺司遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団　2002 『横手南川端遺跡・横手湯田遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団　2002 『西田遺跡・村中遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団　2002 『鶴光路榎橋遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団　2002 『徳丸仲田遺跡（２）』
群馬県埋蔵文化財調査事業団　2002 『中内村前遺跡（１）』



1.房丸桜町遺跡　2.川曲遺跡　3.東田遺跡　4.宮地中田遺跡　5.横手湯田遺跡　6.横手湯田Ⅱ遺跡　7.横手湯田Ⅲ遺跡　8.横手湯田Ⅳ遺跡　9.鶴光路練引遺跡
10.村中遺跡（県）　11.村中遺跡（市）　12.西田遺跡（県）　13.西田遺跡（市)･西田Ⅳ遺跡　14.西田Ⅱ遺跡　15.西田Ⅲ遺跡　16.下阿内壱町畑遺跡
17.下阿内前田遺跡　18.南部拠点地区遺跡群No.1　19.南部拠点地区遺跡群No.2　20.南部拠点地区遺跡群No.3　21.南部拠点地区遺跡群No.4　22.鶴光路榎橋遺跡
23.鶴光路榎橋Ⅱ　24.徳丸高堰遺跡　25.徳丸高堰Ⅱ　26.徳丸仲田遺跡　27.徳丸仲田Ⅲ　28.西善尺司遺跡　29.中内村前遺跡　31.前田遺跡　32.藤川前遺跡
a.亀里環濠遺構群　b.宿阿内城　c.阿内古城　d.前田屋敷　e.鶴光路亀里環濠遺構群　f.下佐鳥環濠集落　g.東宮地環濠遺構群　h.西善環濠遺構群
i.旧西善環濠遺構群　j.房丸東環濠遺構群　k.横堀環濠遺構群　l.力丸城　m.東力丸環濠遺構群　n.藤川環濠集落　o.徳丸東環濠遺構群

Fig.1　房丸桜町遺跡周辺遺跡図

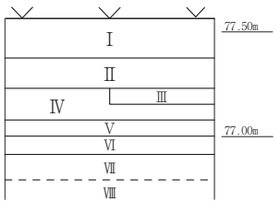
Ⅲ　調査の方法と経過

調査方法は調査区内に排土置き場設置の関係上、調査区を東西に２分割し西側調査区から調査を開始、調査終了後に西側調査区を埋め戻し、東側調査区の調査を開始した。表土掘削は試掘調査の結果を踏まえて、遺構確認面までは重機（0.45ユンボ）で掘削､遺構調査に関しては土層観察用ベルトを適宜設定し､埋土の堆積状況･遺物出土状況に留意しながら行った。遺構図化については電子平板を用いて平面図・断面図の測量・編集、一部断面は画像からオルソーフォトに変換して編集を行った。遺構の写真記録は35mmカラーフィルム・リバーサルフィルム・デジタルカメラの３種類を使用し担当者が撮影した。

Tab.1　調査経過

	1月														2月																		
	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
表土掘削	■		■																										■	■	■						
遺構確認				■	■			■	■	■	■	■			■														■	■	■						
遺構調査											■	■			■		■	■	■			■	■						■	■	■	■	■				
測　　量																		■	■							■					■		■				
全景撮影																								■							■		■				
埋め戻し																															■						■

Ⅳ　基本層序



基本層序
Ⅰ　現耕作土
Ⅱ　暗灰褐色土　As-B軽石混土。粘性やや弱い、しまりやや強い。
Ⅲ　褐灰色土　As-B軽石。粘性やや弱い、しまりやや弱い。
Ⅳ　黒褐色土　焼土を微量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
Ⅴ　黒褐色土　黒色粘質土主体。粘性やや強い、締まりやや強い。
Ⅵ　灰褐色土　灰褐色粘質土主体。粘性強い、締まり強い。
Ⅶ　黄褐色土　細粒砂を含む。粘性強い、締まり強い。
Ⅷ　黄灰褐色土　細粒砂を多量含む。粘性強い、締まり強い。

Fig.2　基本層序

Ⅴ　遺構と遺物

Ｈ－１号住居跡（Fig. 4・10、PL. 2・5）

位置　X 15～17、Y 1 グリッド　**主軸方向**　N－33°－E　**規模**　長軸（7.12）m、短軸（5.28）m、壁現高 0.45 m。**面積**　（17.76）㎡　**床面**　概ね平坦だが硬化面はみられない。　**炉・竈**　検出されなかった。東壁の南端付近で焼土ブロックの集中がみられるが、位置関係から炉に起因するものとは考え難い。　**住居内施設**　明確には検出されなかった。**重複**　W－2・X－2と重複しており、新旧関係はH－1→X－2→W－2である。　**出土遺物**　出土遺物が少量である。全て覆土上層からの出土であり、X－2に伴う遺物の可能性がある。　**時期**　出土遺物から4世紀代と考えられる。

Ｈ－２号住居跡（Fig. 5・10、PL. 2・5）

位置　X 16～18、Y 1 グリッド　**主軸方向**　N－32°－E　**規模**　長軸（4.73）m、短軸（3.57）m、壁現高 0.48 m。**面積**　（10.82）㎡　**床面**　概ね平坦だが硬化面はみられない。　**炉・竈**　検出されなかった。　**住居内施設**　検出されなかった。　**重複**　B－1・P－6・8と重複しており、新旧関係はH－2→B－1・P－6・8である。　**出土遺物**　出土遺物が少量である。全て覆土上層から出土した。　**時期**　出土遺物から4世紀代と考えられる。

Ｈ－３号住居跡（Fig. 5・10、PL. 2・5）

位置　X 18・19、Y 1 グリッド　**主軸方向**　N－41°－E　**規模**　長軸（4.63）m、短軸（3.49）m、壁現高 033 m。　**面積**　(40.52)㎡　**床面**　概ね平坦だが硬化面はみられない。　**炉・竈**　検出されなかった。　**住居内施設**　検出されなかった。　**重複**　W－1と重複しており、新旧関係はW－1→H－3である。　**出土遺物**　出土遺物が少量である。住居跡に帰属する遺物としては台付甕（1）が挙げられる。　**時期**　出土遺物から4世紀代と考えられる。

Ｈ－４号住居跡（Fig. 6・10、PL. 5）

位置　X 11・12、Y 1 グリッド　**主軸方向**　N－73°－E　**規模**　長軸（4.60）m、短軸（1.62）m、壁現高 0.30 m。　**面積**　(3.0)㎡　**床面**　概ね平坦だが硬化面はみられない。　覆土　焼土や炭化物を多量に含む。　**炉・竈**　検出されなかった。　**住居内施設**　検出されなかった。　**重複**　T－1・P－1と重複しており、新旧関係はH－4→T－1→P－1である。　**出土遺物**　住居跡に帰属する遺物としては須恵器埦(1)が挙げられる。　**時期**　出土遺物から10世紀前半と考えられる。

Ｈ－５号住居跡（Fig. 8・10、PL. 2・5）

位置　X 29～31、Y 1・2 グリッド　**主軸方向**　N－38°－E　**規模**　長軸（5.08）m、短軸（4.41）m、壁現高 0.18 m。　**面積**　（14.56）㎡　**床面**　平坦で東部分を中心に地山硬化床がみられる。　**炉・竈**　検出されなかった。北壁付近で炭化物の集中がみられるため調査区外に存在する可能性がある。　**住居内施設**　柱穴1基、壁周溝。　**重複**　D－3と重複しており、新旧関係はH－5→D－3である。　**出土遺物**　出土遺物が少量である。住居跡に帰属する遺物としては小型甕（1）、高坏（2）が挙げられる。　**時期**　出土遺物から5世紀代と考えられる。

Ｔ－１号竪穴状遺構（Fig. 6）

位置　X 12、Y 1 グリッド　**主軸方向**　N－46°－W　**規模**　長軸 2.88 m、短軸 2.40 m、壁現高 0.36 m。　**床面**　概ね平坦だが硬化面はみられない。　**重複**　H－4・P－1と重複しており、新旧関係はH－4→T－1→P－1である。　**出土遺物**　出土遺物が少量である。全て覆土上～中層から出土した。　**時期**　出土遺物と重複関係から10世紀後半と考えられる。

Ｂ－１号掘立柱建物跡（Fig. 5、PL. 3）

位置　X 16～18、Y 1 グリッド　**主軸方向**　N－72°－W　**検出長**　（6.40）m。　**柱穴の芯芯距離**　1.62～1.98m。　**覆**

土　P－1・2には柱痕がみられる。　**重複**　H－2・W－1と重複しており、新旧関係はH－2→B－1→W－1である。　**出土遺物**　柱穴覆土中から土師器小片がやや多く出土したが、重複するH－2に伴うものと考えられる。　**時期**　詳細な時期は不明。遺構の重複関係からは4世紀代以降。

X－1号跡（Fig. 6）

位置　X 11・12、Y 1グリッド　**規模**　長軸（0.99）m、短軸0.66 m。白色粘土の分布範囲である。　**重複**　T－1と重複しており、新旧関係はT－1→X－1である。　**出土遺物**　なし。　**時期**　不明。

X－2号跡（Fig. 4）

位置　X 15・16、Y 1グリッド　焼土と灰の分布範囲である。　**覆土**　調査区壁面の土層観察によれば、本遺構は確認面より上層に存在した住居跡の炉の可能性がある。　**重複**　H－1・P－1と重複しており、新旧関係はH－1→X－2である。　**出土遺物**　焼土層中に土師器の細片が若干みられる。　**時期**　出土遺物と重複関係から4世紀以降と考えられる。

X－3号跡（Fig. 6）

位置　X 10・11、Y 1グリッド　**規模**　長軸（3.72）m、短軸（1.26）m。浅い窪地である。　**重複**　W－3・W－7と重複しており、新旧関係はW－7→X－3→W－3である。　**出土遺物**　出土遺物が少量である。覆土中からは拳大の川原石が数点出土。　**時期**　不明。

X－4号跡（Fig. 7・11、PL. 4・5・6）

位置　X 9・10、Y 1グリッド　**規模**　長軸（6.09）m、短軸（4.75）m、壁現高0.48 m。　**底面**　起伏に富む。北側に向かって皿状に窪む。　**覆土**　北端最深部付近に炭化物の純層が、付属溝の上層にみられる。　**付属施設**　幅狭で深い溝が付属する。流水の痕跡がみられる。　**出土遺物**　炭化物層の層中と直上から多数出土。須恵器と灰釉陶器の供膳具、土師器甕など。　**時期**　出土遺物から10世紀前半と考えられる。

Tab. 2　井戸・土坑・ピット計測表

遺構名	位置	長軸	短軸	深さ	形状	出土遺物	備考
I－1	X25・26、Y 1	221.4	203.6	(129.6)	楕円形	白磁端反り皿	覆土中位に井戸封じの中型礫
I－2	X31・32、Y 1	(149.3)	(79.5)	(107.2)	楕円形		
D－1	X 7・8、Y 1	(115.0)	(83.0)	11.2	隅丸長方形	土師器坏	
D－2	X 7、Y 1	(79.7)	(47.9)	7.2	隅丸長方形		
D－3	X30、Y 1・2	(131.1)	(82.1)	2.4	隅丸長方形		
D－4	X24、Y 1	97.3	97.3	9.6	楕円形	土師器坏	
P－1	X12、Y 1	(118.0)	(45.4)	16.8	不整形		
P－2	X12、Y 1	68.8	(33.3)	29.2	不整形		柱痕有り。炭化材出土。
P－3	X14、Y 1	51.3	47.1	20.4	円形		
P－4	X14、Y 1	39.3	38.1	22.4	円形		
P－5	X14、Y 1	(79.0)	(15.8)	12.8	不整形		
P－6	X17、Y 1	47.9	40.8	19.0	円形		
P－7	X20、Y 1	39.4	37.2	37.0	円形		
P－8	X17・18、Y 1	45.1	42.5	78.0	円形		
P－9	X 3、Y 1	50.6	46.8	23.0	円形		
P－10	X 3、Y 0・1	63.4	(35.8)	8.0	円形		
P－11	X 8、Y 1	31.8	31.4	45.0	円形		
P－12	X28、Y 1	43.8	(41.8)	82.0	円形		
P－13	X29、Y 1	30.9	(22.7)	7.0	楕円形		
P－14	X29、Y 1	29.9	(24.1)	39.0	楕円形		
P－15	X29、Y 1	36.3	32.6	20.0	円形		
P－16	X30、Y 1	69.7	(27.2)	24.0	円形		
P－17	X30・31、Y 1	70.3	61.1	13.0	円形		
P－18	X32、Y 1	38.6	32.9	25.0	円形		
P－19	X32、Y 2	43.1	42.2	11.0	円形		
P－20	X30、Y 1	24.8	23.0	52.0	円形		

Tab. 3　溝計測表

遺構名	位置	最大値（cm）				形状	出土遺物	備考
		上幅	下幅	長さ	深さ			
W－1	X18、Y 1	149.7	129.2	294.9	29.0	浅いU字状	須恵器坏	
W－2	X16、Y 1	107.2	81.1	286.1	20.4	浅いU字状	須恵器坏	
W－3	X10・11、Y 1	150.0	134.1	303.5	25.5	浅いU字状	須恵器坏	
W－4	X12・13、Y 1	174.3	122.8	335.2	24.0	浅いU字状		
W－5	X13・14、Y 1	146.5	97.6	570.9	13.0	浅いU字状	須恵器坏	
W－6	X13・14、Y 1	59.0	35.2	156.9	7.0	浅いU字状		
W－7	X11・12、Y 1	102.6	70.3	258.0	26.0	浅いU字状		
W－8	X14・15、Y 1	171.6	92.4	193.4	94.0	深いU字状		
W－9	X 3、Y 0・1	40.1	20.4	97.0	9.0	逆台形		
W－10	X 2、Y 1	97.4	31.0	90.6	44.0	逆台形		
W－11	X 8、Y 1	23.6	12.7	180.0	8.0	浅いレンズ状		
W－12	X 7・8、Y 1	49.4	29.8	223.6	22.0	浅いU字状		
W－13	X32・33、Y 1・2	253.7	175.9	384.0	49.6	逆台形		
W－14	X33・34、Y 1・2	540.1	403.4	390.9	(75.2)	浅いレンズ状	土師器	
W－15	X31・32、Y 1・2	40.9	22.0	307.1	7.0	浅いレンズ状		

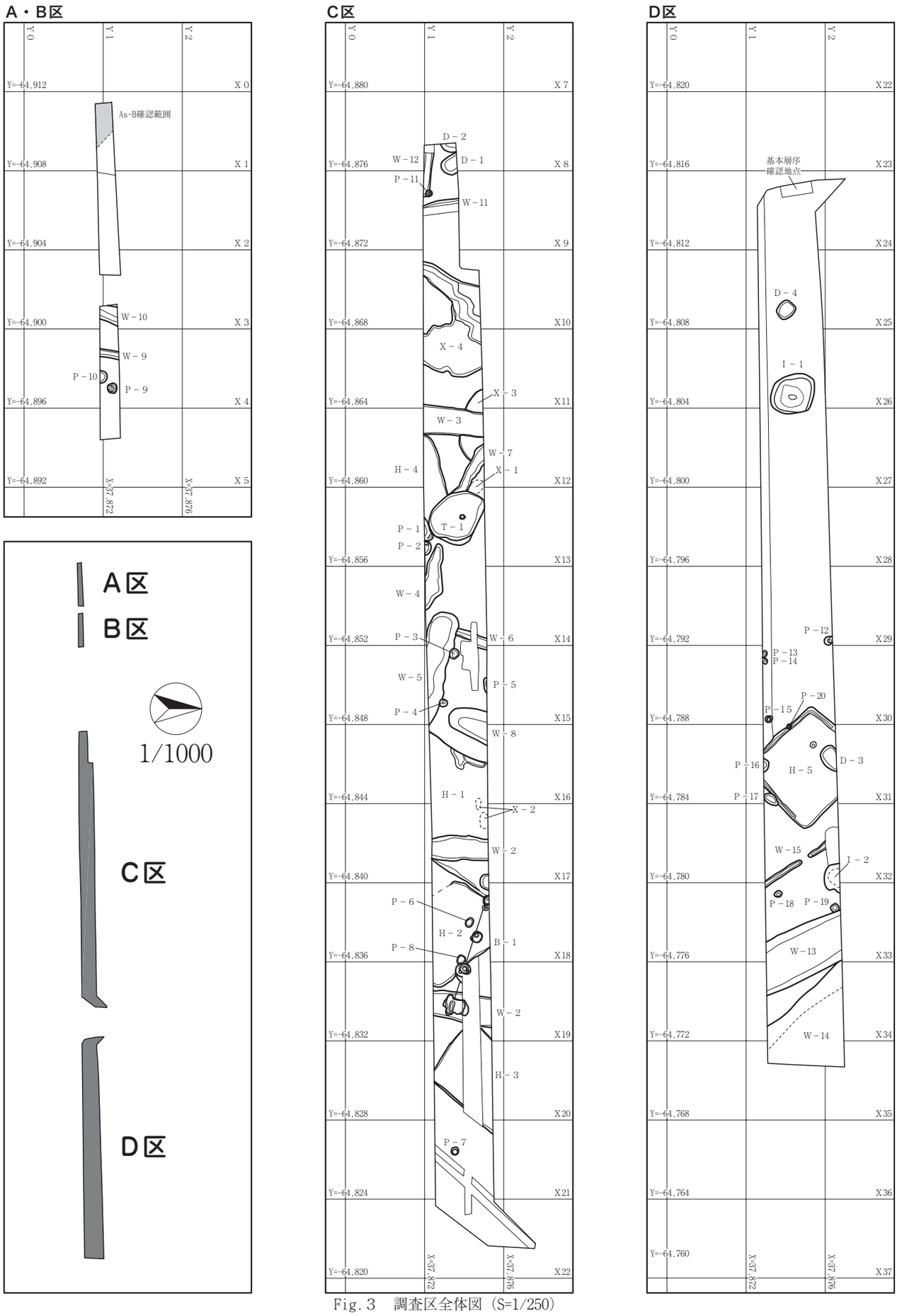
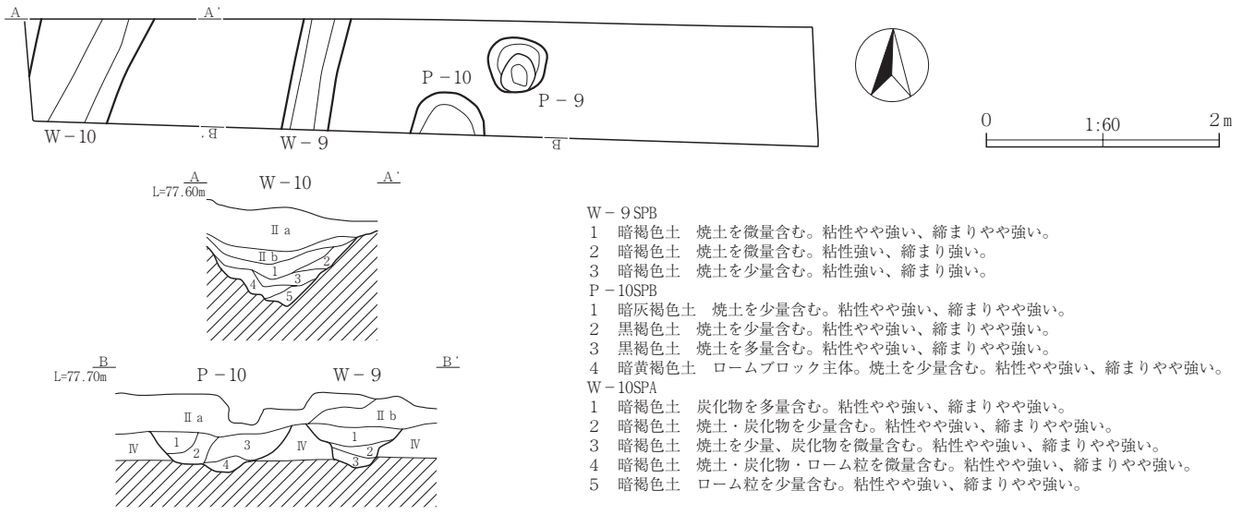


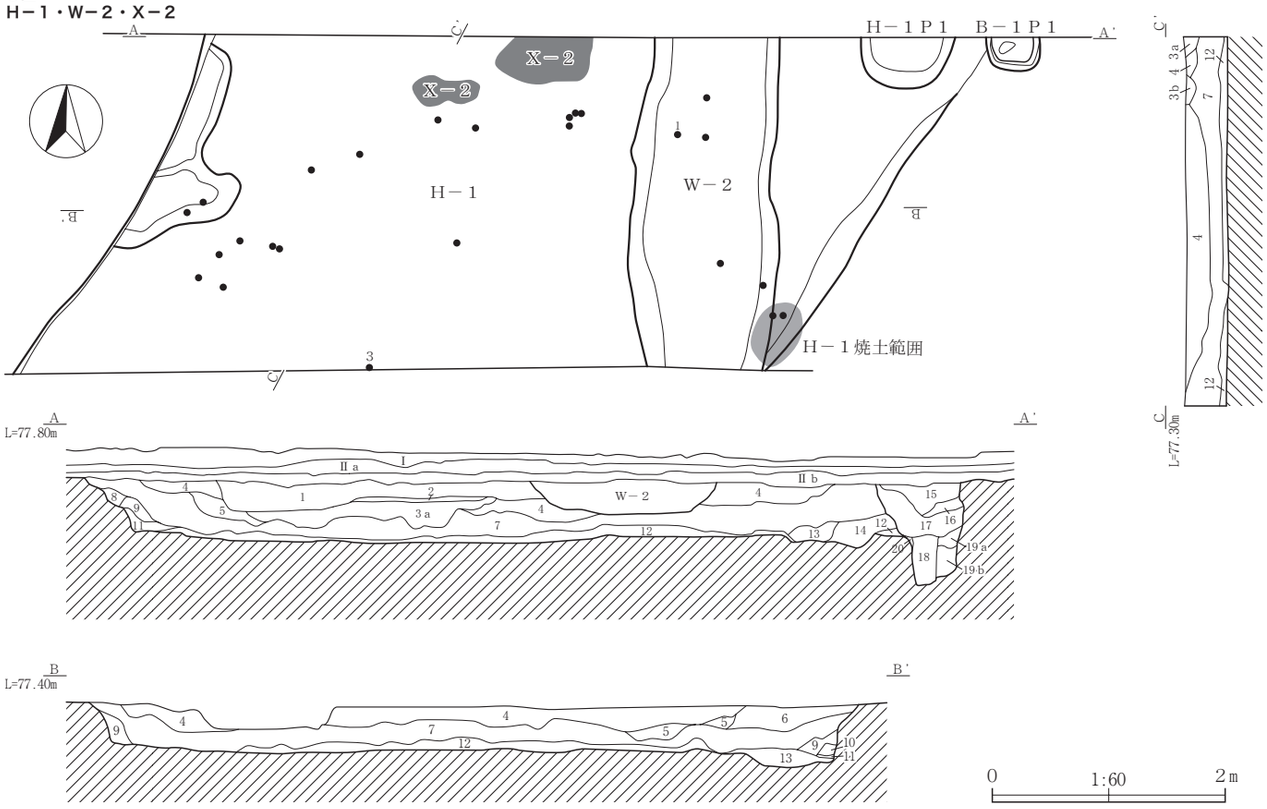
Fig. 3　調査区全体図（S=1/250）

B区
W－9・10、P－9・10



W－9 SPB
1　暗褐色土　焼土を微量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
2　暗褐色土　焼土を微量含む。粘性強い、締まり強い。
3　暗褐色土　焼土を少量含む。粘性強い、締まり強い。
P－10SPB
1　暗灰褐色土　焼土を少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
2　黒褐色土　焼土を少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
3　黒褐色土　焼土を多量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
4　暗黄褐色土　ロームブロック主体。焼土を少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
W－10SPA
1　暗褐色土　炭化物を多量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
2　暗褐色土　焼土・炭化物を少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
3　暗褐色土　焼土を少量、炭化物を微量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
4　暗褐色土　焼土・炭化物・ローム粒を微量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
5　暗褐色土　ローム粒を少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。

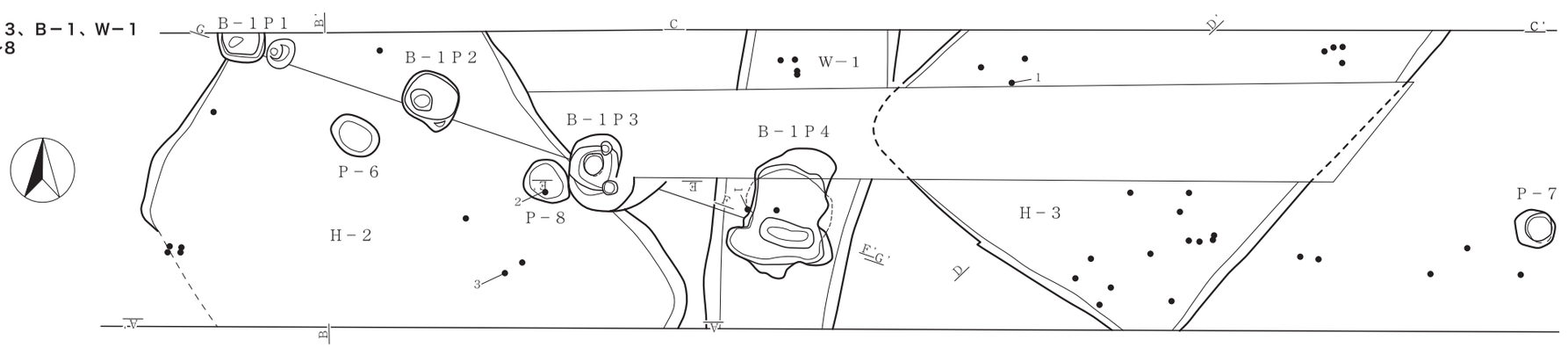
C区
H－1・W－2・X－2



H－1、B－1P1SPA・SPB・SPC
1　黒褐色土　焼土・炭化物をやや多量含む。粘性弱い、締まりやや強い。X－2に伴う住居覆土。
2　黒色土　焼土・炭化物主体。粘性弱い、締まり強い。X－2に伴う住居覆土。
3　黒色土　焼土・炭化物を多量含む。粘性弱い、締まり弱い。X－2に伴う住居掘り方。
4　暗褐色土　焼土・As-C軽石を微量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
5　黒色土　As-C軽石を多量含む。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
6　黒褐色土　As-C軽石・ローム粒を微量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
7　黒褐色土　6層に類似。ロームブロックを微量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
8　暗褐色土　暗灰色粘質土ブロックを少量、As-C軽石をやや少量含む。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
9　暗黄褐色土　ロームブロックをやや多量含む。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
10　黒褐色土　ローム粒を少量、As-C軽石を微量含む。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
11　黄褐色土　ロームブロック主体。粘性強い、締まりやや弱い。
12　暗黄褐色土　ロームブロック・粒をやや多量含む。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
13　黄褐色土　ロームブロックを多量含む。粘性弱い、締まり弱い。住居内ピット覆土。
14　黒褐色土　ロームブロック・As-C軽石を少量含む。粘性やや弱い、締まりやや弱い。住居内ピット覆土。
15　黒褐色土　As-C軽石・ロームブロックを少量含む。B－1P1覆土。粘性弱い、締まりやや強い。
16　暗黄褐色土　黄褐色粘質土ブロックを多量含む。B－1P1覆土。粘性強い、締まり強い。
17　黒色土　As-C軽石を多量、ロームブロックをやや少量含む。B－1P1覆土。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
18　黒色土　As-C軽石をやや多量含む。B－1P1覆土。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
19a　黒褐色土　黄褐色粘質土ブロックを多量含む。B－1P1覆土。粘性強い、締まり強い。
19b　黒褐色土　19aと比べ黄褐色粘質土ブロック少量。B－1P1覆土。粘性強い、締まり強い。
20　黄褐色土　ロームブロック主体。B－1P1覆土。粘性弱い、締まり弱い。

Fig.4　H－1号住居跡、W－2・9・10号溝、X－2号跡、P－9・10号ピット

C区
H－2・3、B－1、W－1
P－7～8



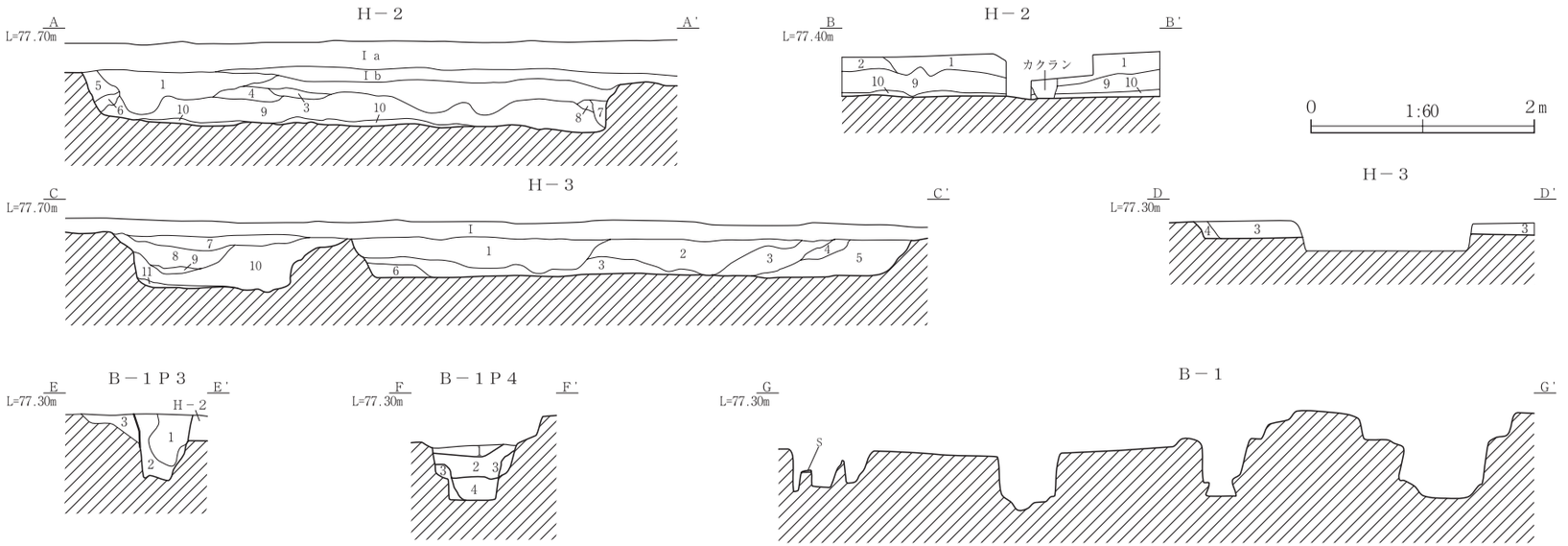


Fig.5　H－2・3号住居跡、B－1号掘立柱建物跡、W－1号溝、P－6～8号ピット

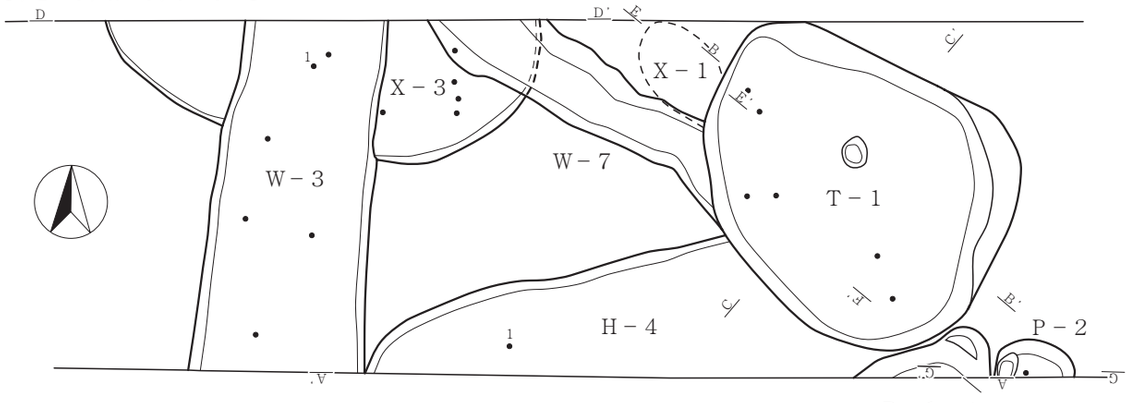
H－2SPA・SPB
1　黒色土　焼土ブロックを微量含む。粘性やや弱い。締まりやや弱い。
2　黒色土　1層に類似。炭化物を少量含む。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
3　黒褐色土　As-C軽石を多量含む。粘性弱い、締まり弱い。
4　黒褐色土　3層に類似。As-C軽石をやや少量含む。粘性やや弱い。締まりやや弱い。
5　黒褐色土　暗灰色粘質土ブロックを少量含む。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
6　黒色土　ロームブロックを少量含む。粘性やや弱い。締まりやや弱い。
7　黒色土　ロームブロックをやや多量含む。粘性やや弱い。締まりやや弱い。
8　暗黄褐色土　ロームブロック主体。粘性弱い。締まり弱い。
9　黒褐色土　As-C軽石・ローム粒を少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
10　暗褐色土　ローム粒を多量含む。粘性やや強い、締まり弱い。

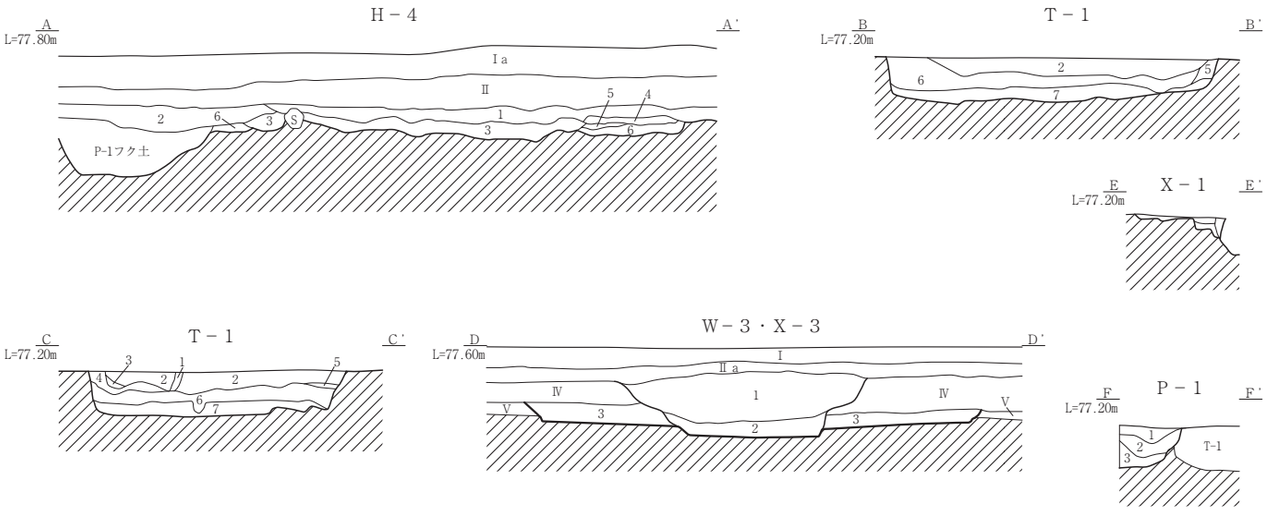
H－3SPC・SPD
1　黒褐色土　暗灰色粘質土ブロックを多量、炭化物を微量含む。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
2　黒褐色土　1層に類似。炭化物をやや多量含む。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
3　黒褐色土　1層に類似。暗灰色粘質土ブロックをやや多量含む。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
4　暗灰色土　暗灰色粘質土ブロック主体。粘性弱い、締まり弱い。
5　黒褐色土　1層に類似。ロームブロックを少量含む。粘性弱い、締まり弱い。
6　暗褐色土　ロームブロックを多量含む。粘性やや弱い、締まりやや弱い。

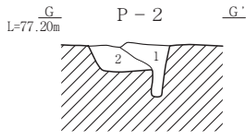
B－1P3SPE
1　黒色土　As-C軽石をやや多量含む。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
2　黒褐色土　黄褐色粘質土ブロックを多量含む。粘性強い、締まり強い。
3　黒色土　As-C軽石を多量、ロームブロックをやや少量含む。粘性やや弱い、締まりやや弱い。

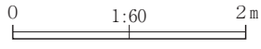
B－1P4SPF
1　黒色土　As-C軽石を多量、ロームブロックをやや少量含む。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
2　黒褐色土　黄褐色粘質土ブロックを多量含む。粘性強い、締まり強い。
3　黄褐色土　ロームブロック主体。粘性弱い、締まり弱い。
4　黒色土　As-C軽石をやや多量含む。粘性やや弱い、締まりやや弱い。

C区
H－2・3、B－1、W－1、P－7～8









H－4 SPA
1　黒褐色土　As-B軽石をやや多量含む。粘性弱い、締まり強い。
2　黒色土　焼土・炭化物をやや少量含む。粘性やや弱い、締まり強い。
3　黒褐色土　焼土・炭化物を多量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
4　黒褐色土　３層に類似。焼土をやや少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
5　黒褐色土　ロームブックをやや多量含む。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
6　黒褐色土　As-C軽石・炭化物を多量含む。粘性弱い、締まり強い。
7　黒色土　As-C軽石を少量含む。粘性強い、締まり強い。

T－1 SPB・SPC
1　灰褐色土　灰褐色砂質土を多量含む。粘性弱い、締まり強い。
2　暗灰褐色土　As-B軽石・炭化物をやや少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
3　暗灰褐色土　赤化した鉄分ブロックをやや多量含む。粘性強い、締まり強い。
4　黒褐色土　炭化物をやや多量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
5　黒色土　黒色土主体。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
6　暗灰褐色土　２層に類似。炭化物を微量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
7　暗褐色土　ロームブロックを多量含む。粘性強い、締まりやや強い。

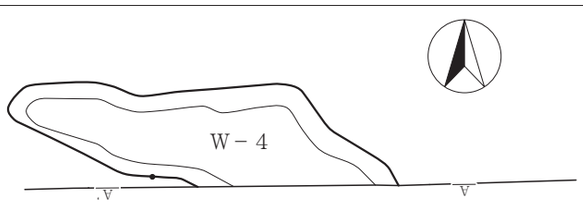
W－3、X－3 SPD
1　黒褐色土　焼土・炭化物をやや多量含む。粘性やや弱い、締まり強い。
2　暗褐色土　灰白色砂をやや多量含む。粘性やや弱い、締まりやや強い。
3　●●

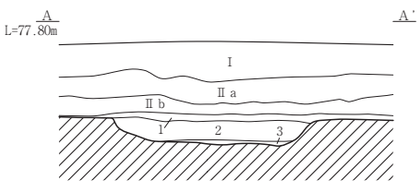
X－1 SPE
1　暗褐色土　黄褐色粘質土を少量含む。焼土・炭化物を含まない。
　粘性やや強い、締まりやや強い。

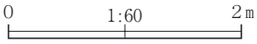
P－1 SPF
1　暗灰褐色土　As-B軽石を少量含む。粘性強い、締まり強い。
2　暗灰褐色土　ロームブロックを多量含む。粘性強い、締まり強い。
3　黒褐色土　ローム粒を微量含む。粘性強い、締まり強い。

P－2 SPG
1　暗褐色土　炭化物、灰褐色土ブロックをやや多量含む。粘性強い、締まり強い。
2　黒褐色土　灰褐色土ブロックをやや多量含む。粘性強い、締まり強い。

C区
W－4



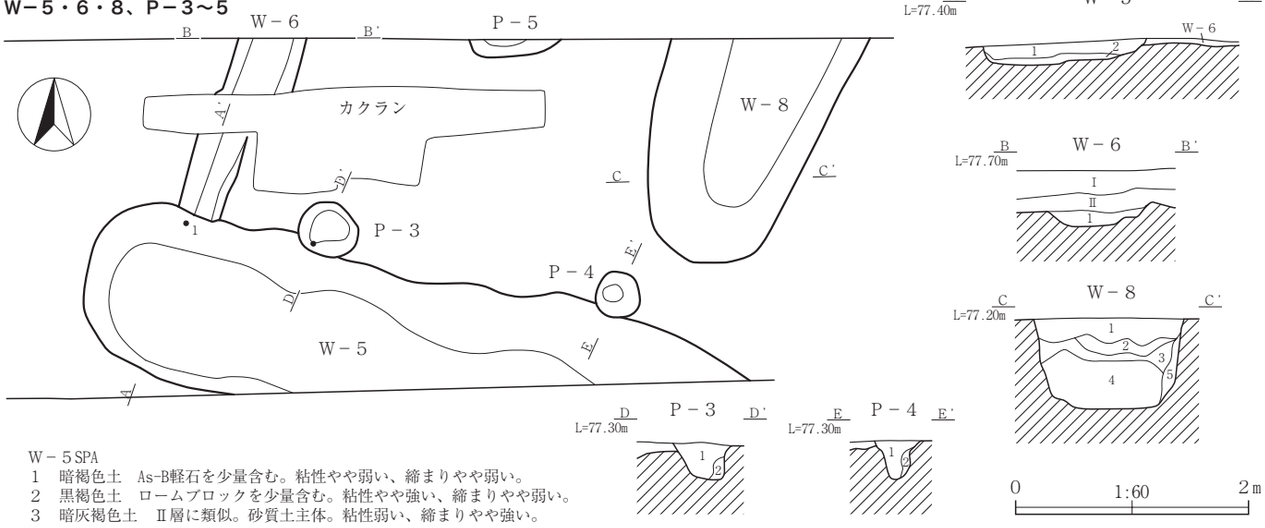




W－4 SPA
1　暗橙色土　鉄分沈着層。粘性やや弱い、締まり強い。
2　黒色土　ロームブロック、As-C軽石を少量含む。粘性強い、締まり強い。
3　暗灰色土　砂質土の純層。粘性弱い、締まり弱い。

Fig.6　H－4号住居跡、T－1号竪穴状遺構、W－3・4・7号溝、X－1・3号跡、P－1・2号ピット

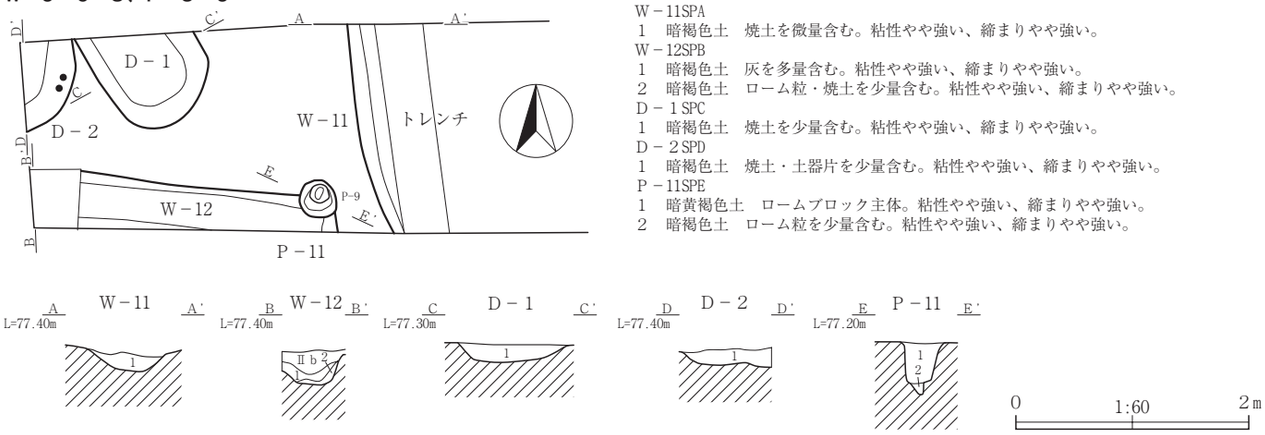
C区
W－5・6・8、P－3～5



W－5 SPA
1　暗褐色土　As-B軽石を少量含む。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
2　黒褐色土　ロームブロックを少量含む。粘性やや強い、締まりやや弱い。
3　暗灰褐色土　Ⅱ層に類似。砂質土主体。粘性弱い、締まりやや強い。
W－6 SPB
1　暗灰褐色土　Ⅱ層に類似。砂質土主体。粘性弱い、締まりやや強い。
W－8 SPC
1　黒褐色土　As-A軽石をやや多量含む。粘性やや弱い、締まり強い。
2　黒色土　ローム粒を微量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
3　黒色土　２層に類似。暗灰色粘質土ブロックをやや少量含む。
4　黒色土　ローム粒を微量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
5　黒色土　ロームブロックを多量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。

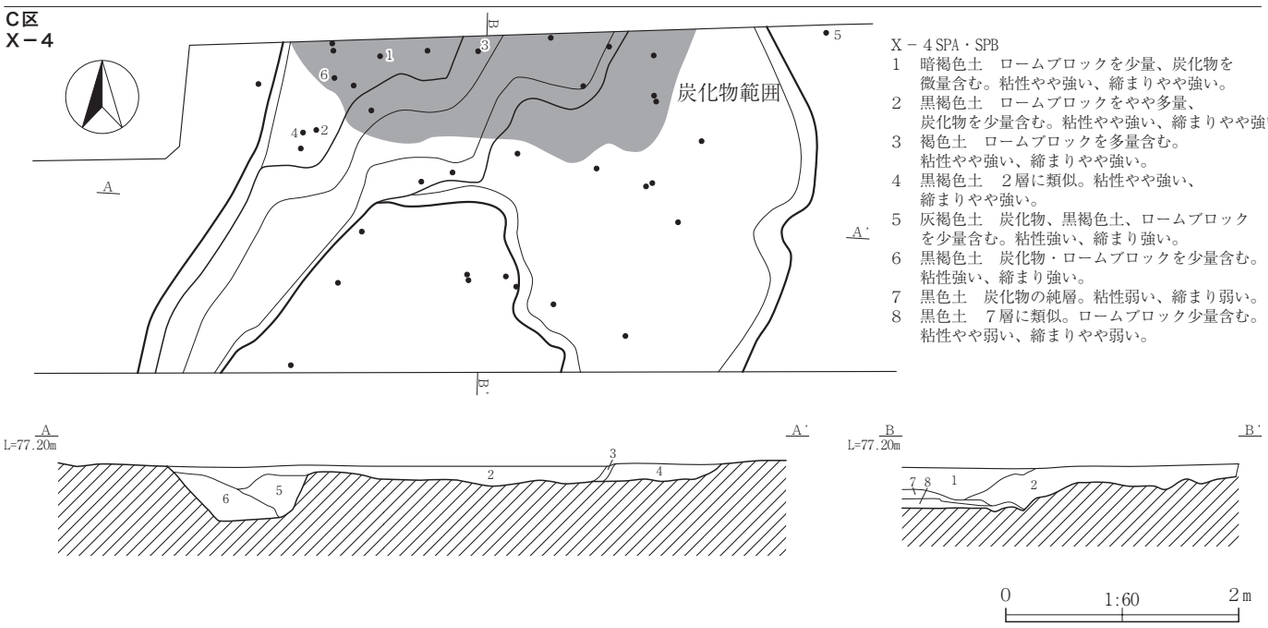
P－３・４SPD・SPE
1　黒褐色土　As-B軽石・っロームブロックを少量含む。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
2　黒色土　ローム粒を少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。

C区
W－5・6・8、P－3～5



W－11SPA
1　暗褐色土　焼土を微量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
W－12SPB
1　暗褐色土　灰を多量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
2　暗褐色土　ローム粒・焼土を少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
D－１SPC
1　暗褐色土　焼土を少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
D－２SPD
1　暗褐色土　焼土・土器片を少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
P－11SPE
1　暗黄褐色土　ロームブロック主体。粘性やや強い、締まりやや強い。
2　暗褐色土　ローム粒を少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。

C区
X－4



X－４SPA・SPB
1　暗褐色土　ロームブロックを少量、炭化物を微量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
2　黒褐色土　ロームブロックをやや多量、炭化物を少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
3　褐色土　ロームブロックを多量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
4　黒褐色土　２層に類似。粘性やや強い、締まりやや強い。
5　灰褐色土　炭化物、黒褐色土、ロームブロックを少量含む。粘性強い、締まり強い。
6　黒褐色土　炭化物・ロームブロックを少量含む。粘性強い、締まり強い。
7　黒色土　炭化物の純層。粘性弱い、締まり弱い。
8　黒色土　７層に類似。ロームブロック少量含む。粘性やや弱い、締まりやや弱い。

Fig.7　W－11・12号溝、D－１・２号土坑、X－４号跡、P－11号ピット

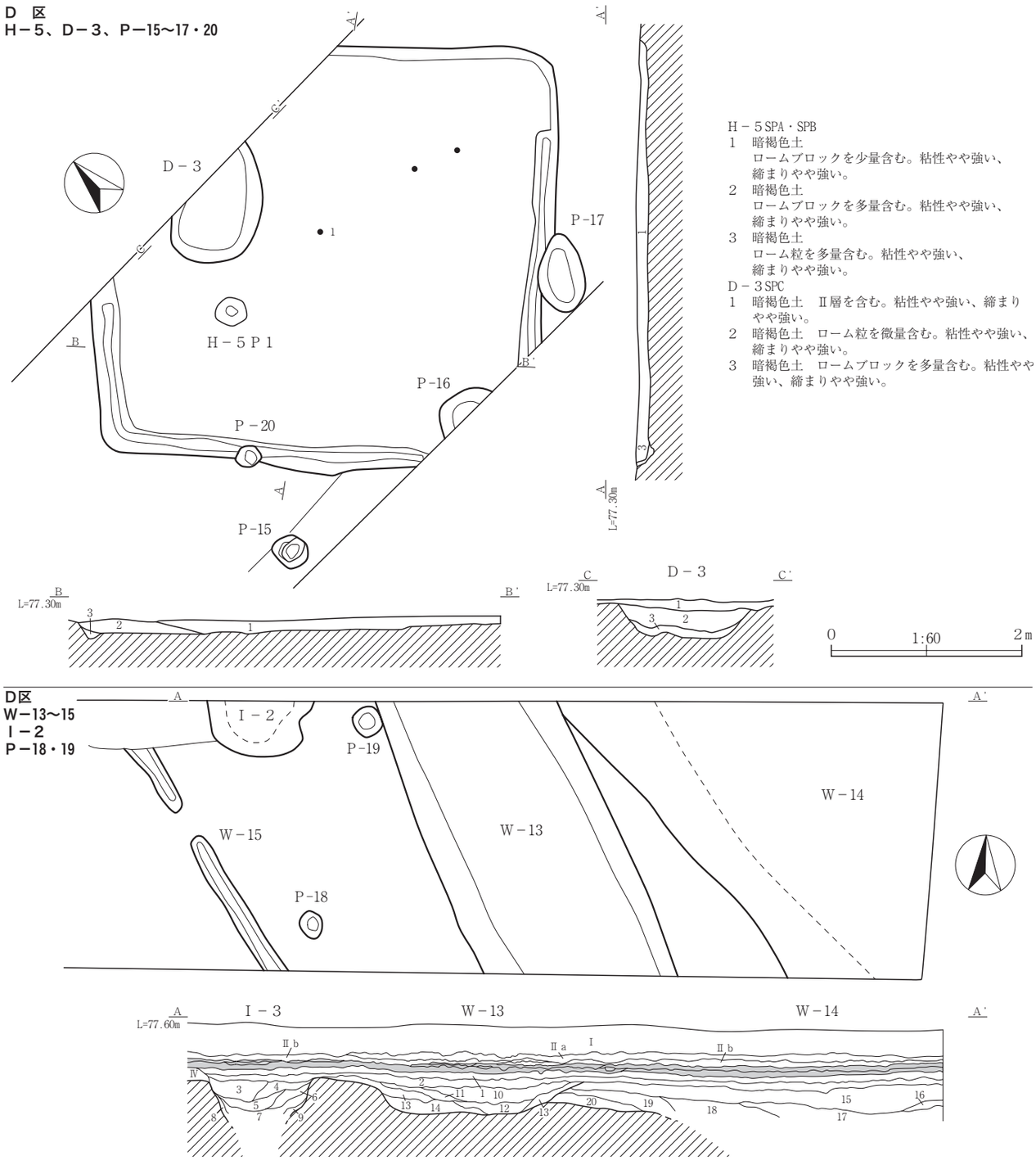


Fig.8　H－5号住居跡、W－13～15号溝、D－3号土坑、I－2号井戸、P－15～20号ピット

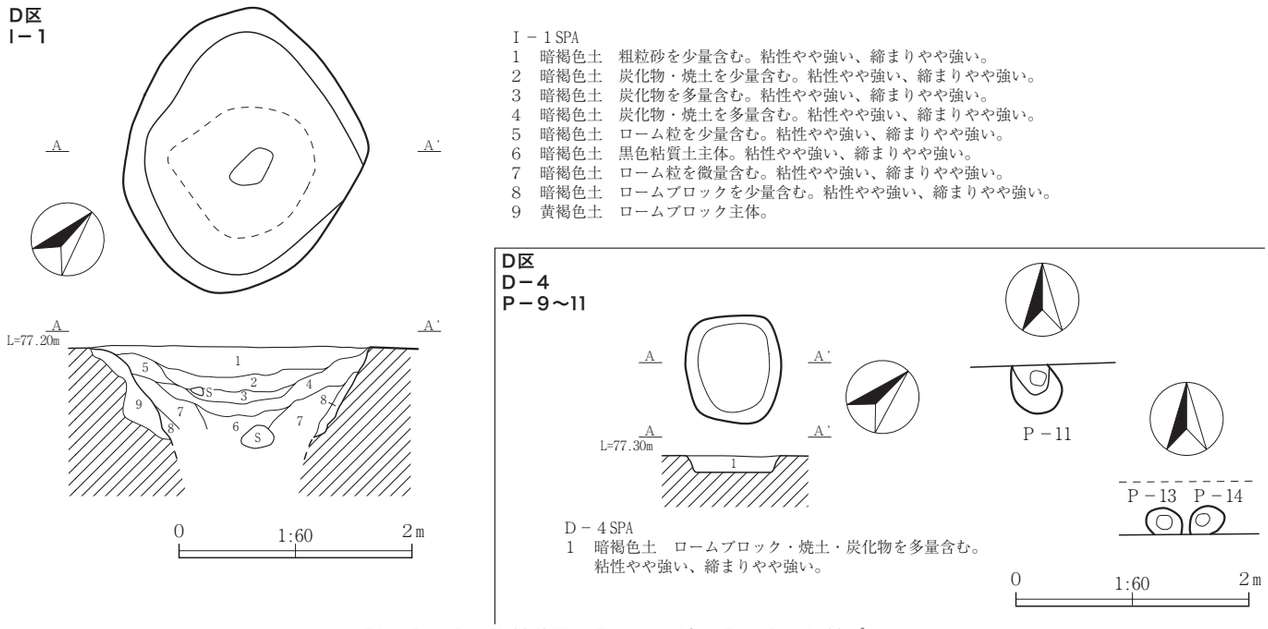


Fig.9　Ⅰ－1号井戸、D－4土坑、P－9～11号ピット

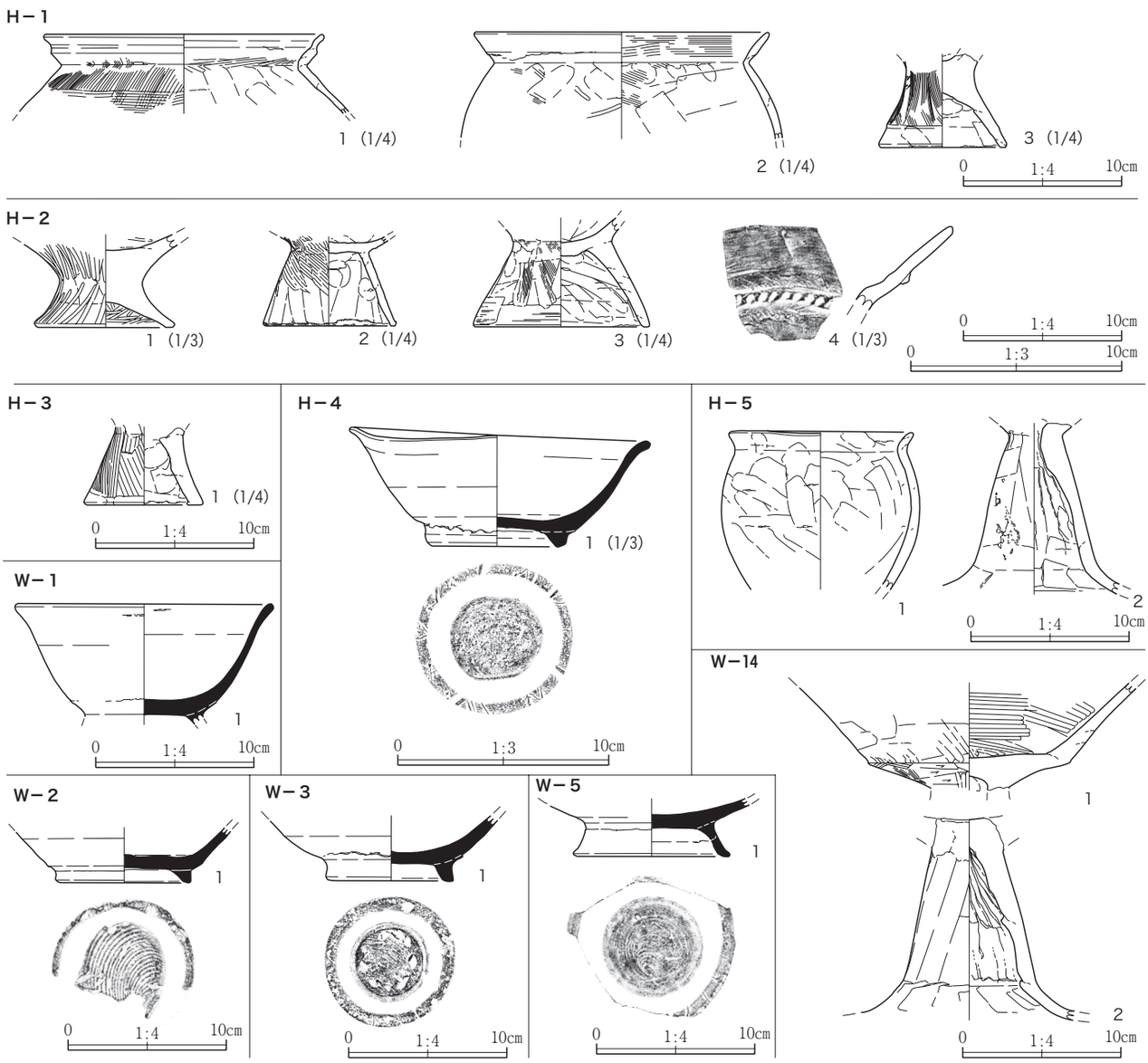


Fig.10　H－1～5号住居跡、W－1～3・5・12号溝跡出土遺物

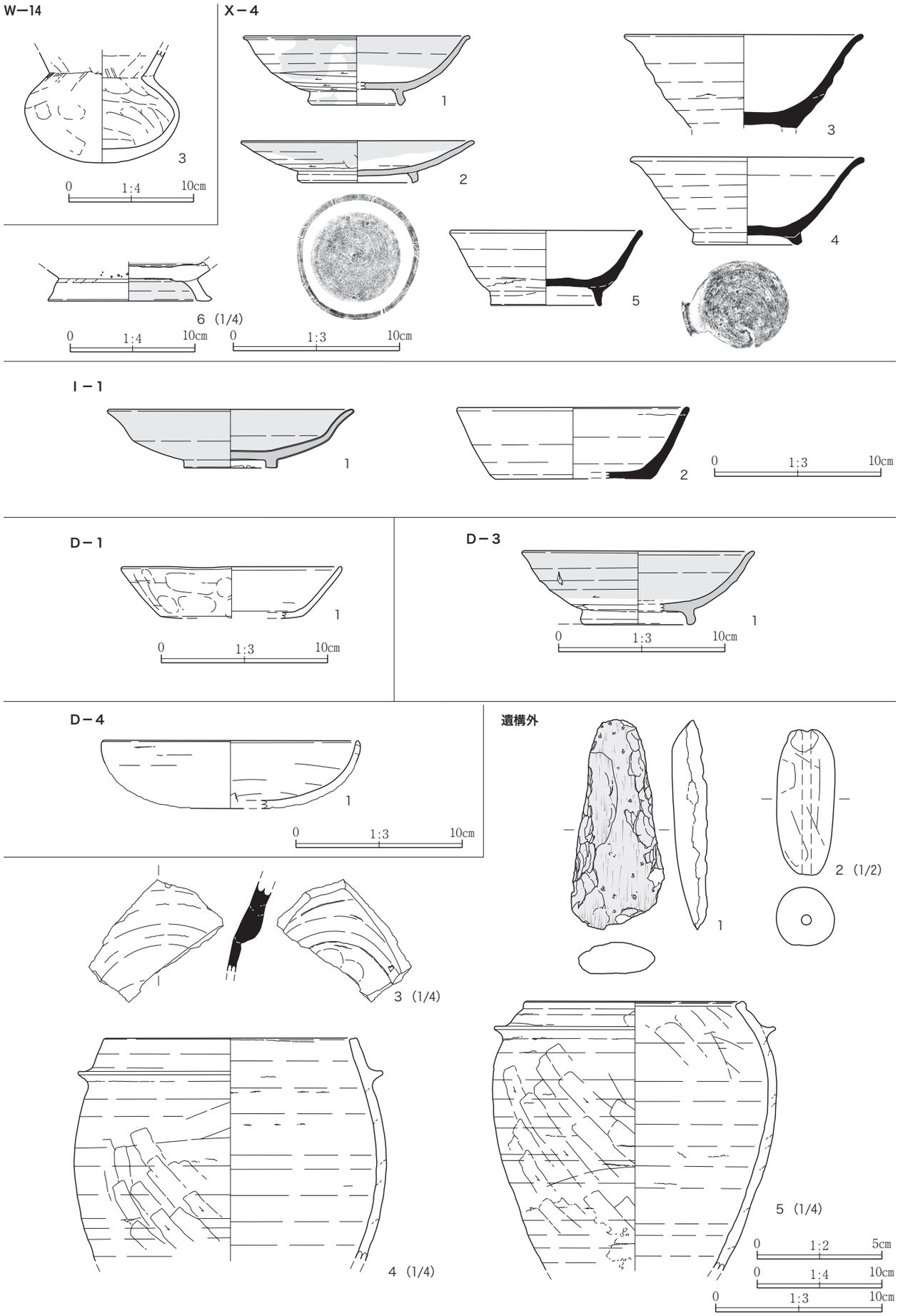


Fig.11　W－15号溝、O－１号落込み、Ｉ－１号井戸，Ｄ－１・３・４号土坑、表採出土遺物

Tab. 4　出土遺物観察表

H－1

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器　台付甕	–	7.9	(5.9)	白・灰・赤色粒	良好	にぶい橙色	外面ユビナデ後ハケナデ。裾部ヨコナデ。 内面甕部ユビナデ。台部ユビナデ及びヘラナデ。	台部残存。 煤付着。
2	覆土	土師器　台付甕	(17.4)	–	(5.0)	白・黒・橙色粒、 チャート	良好	にぶい黄橙色	外面口縁部中位に段を持ちヨコナデ、以下縦位ハケナデ及び横位ハケナデ。 内面口縁部中位に段を持ちヨコナデ、以下ハケナデ後ユビナデ。	口縁～肩部片残存。
3	床面直上	土師器　甕	(18.5)	–	(6.7)	白・黒・橙色粒	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケナデ後ユビナデ。 内面口縁部ハケナデ後ユビヨコナデ、以下ハケナデ後ヘラナデ及びユビナデ。	口縁～肩部片残存。 外面煤付着。

H－2

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器　台付甕	–	6.4	(4.3)	白・黒・茶色粒、 石英	良好	明赤褐色	内外面ともにヘラナデ及びユビナデ後ミガキ。底部ユビナデ後ミガキ。	胴部下端～台部残存。 内外面赤彩。
2	床面直上	土師器　台付甕	–	8.2	5.6	白・黒色粒、 石英	良好	にぶい褐色	外面ユビナデ後ハケケズリ。内面甕底部・脚部ユビナデ。	台部残存。
3	床面直上	土師器　台付甕	–	11.0	(6.8)	白・黒・茶色粒、 小礫	良好	橙色	外面回転ナデ後ハケナデ及びユビナデ。 内面回転ナデ。甕底部ヘラナデ及びユビナデ。台部ユビナデ。	台部完存。
4	覆土	壺	(16.8)	–	(3.95)	白・黒・橙色粒	良好	にぶい黄橙色	外面ハケナデ後ミガキ。横位沈線一条。流帯文。内面ハケナデ後ミガキ。	口縁部片残存。

H－3

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　台付甕	–	7.3	(5.1)	白・黒・橙色粗 粒	良好	明黄褐色	外面ユビナデ後ハケナデ。裾部ヨコナデ。内面ユビナデ（及びヘラナデ）。	台部残存。

H－4

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器 高台付埦	14.1	5.9	5.6	白・灰色粗粒、 石英	環元焔 軟質	灰白色	内外面ともにロクロナデ。底部回転糸切り後付高台。 器形はゆがみ楕円形を呈する。	4/5残存。 煤付着。

H－5

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器　小型甕	(8.7)	–	(7.5)	白色粒、石英	やや軟質	黒褐色	内外面ともに口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ。	口縁～体下部2/3残存。
2	床面直上	土師器　高杯	–	–	(8.1)	白色粒、石英、 黒色小石	良好	灰黄褐色	外面坏部下端ハケナデ、脚部ヘラナデ後ユビナデ、裾部横位ヘラナデ。 内面裾部ヘラナデ及びユビナデ。絞り痕顕著。	脚部片残存。 外面煤・炭化物付着。

W－1

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器 高台付埦	(12.0)	–	(5.4)	白・灰色粒、 黒雲母、小礫	環元焔 軟質	灰白色	内外面ともにロクロナデ。底部回転糸切り後付高台。	1/4残存。

W－2

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器 高台付埦	–	6.1	(2.6)	白・黒色粒、 チャート	環元焔 普通	灰白色	内外面ともにロクロナデ。底部回転糸切り後付高台。 高台部底部ユビオサエ痕２ヶ所。	1/3残存。

W－3

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器 高台付埦	–	5.9	(3.1)	白・黒・橙色粒、 石英	環元焔 軟質	灰黄色	内外面ともにロクロナデ。底部回転糸切り後付高台。	体部中位～底部。

W－5

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器 高台付埦	–	7.2	(2.75)	白・灰・茶色粒	環元焔 やや軟質	灰白色	内外面ともにロクロナデ。底部回転糸切り後付高台。	底部残存。

W－14

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器　高杯	–	–	(5.2)	白色粒、石英、 チャート、小礫	良好	にぶい赤褐色	外面ヘラケズリ及びユビナデ。坏部下半ハケナデ後ヘラナデ。 内面ヘラナデ後ユビナデ及びハケナデ。	坏部底部。 外面煤付着。
2	覆土	土師器　高杯	–	–	(9.6)	白・黒・茶色粒、 チャート	良好	橙色	外面脚部中位ユビナデ。裾部横位ヘラケズリ。 内面裾部横位ヘラナデ及びユビナデ。絞り痕顕著。	脚部残存。
3	覆土	土師器　小型壺	–	–	(6.8)	白・黒・茶色粒、 チャート	やや軟質	にぶい黄橙色	外面頸下部・肩部ハケナデ、以下ユビナデ及びユビオサエ。 内面ユビナデ及びユビオサエ。	口縁部欠損。 外面剥落。

X－4

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	灰釉陶器　塊	(13.4)	(5.4)	4.2	白・黒色粒	堅緻	灰白色	外面ロクロナデ後体部下半回転ヘラケズリ。底部糸切り後回転ヘラケズリ後付高台。 内面ロクロナデ。	2/5残存。 内外面施釉。
2	床面直上	灰釉陶器　塊	(13.9)	6.7	2.5	白・黒色粒少	堅緻	灰白色	外面ロクロナデ後体部下半回転ヘラケズリ。底部回転糸切り後回転ヘラケズリ後付高台。内面ロクロナデ。 三日月高台。内面研磨による摩滅。	2/5残存。 内外面施釉。
3	床面直上	須恵器 高台付埦	(14.2)	–	(5.7)	白・灰色粒、 黒雲母	環元焔 軟質	灰黄色	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り後付高台。	1/2残存（高台部欠損）。
4	床面直上	須恵器 高台付埦	(13.8)	(6.1)	5.3	白・灰・黒色粒、 黒雲母	環元焔 軟質	灰白色	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り後付高台。	1/2残存。
5	床面直上	須恵器 高台付埦	(11.4)	(6.6)	4.5	黒色粒	環元焔 普通	灰白色	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り後付高台。	2/5残存。
6	床面直上	須恵器　長頸壺	–	(13.0)	(3.1)	白・黒・赤色粒	環元焔 普通	灰白色	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り後付高台。 外面・底部自然釉付着。底部内外面研磨による摩滅。	底部1/2残存。

I－1

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	白磁　端反り皿	(14.6)	(5.55)	3.5	粘土質	堅緻	灰白色	内外面ロクロ。底部削り出し高台。	1/5残存。 貿易陶磁・中国。
2	覆土	須恵器　坏	(13.8)	(9.3)	4.3	白・黒色粒少	堅緻	黄灰色	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り後回転ヘラケズリ。	1/4残存。

D－1

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器　坏	(13.1)	(8.4)	(3.1)	白・黒色粒、 黒雲母	やや軟質	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ及びユビオサエ。 内面ヨコナデ。	1/4残存。

D－3

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	灰釉陶器　塊	(13.8)	(6.6)	(4.4)	白・黒色粒少	堅緻	灰白色	内外面ロクロナデ。体部下半回転ヘラケズリ。底部回転糸切り後付高台。 内面底部重ね焼き痕。	2/5残存。 内外面施釉。

D－4

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器　坏	(15.3)	–	4.1	白・黒色粒、 黒雲母	やや軟質	明褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ以下ヘラナデ及びユビナデ。	1/4残存。

遺構外

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	石質	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	表採	打製石斧	12.5	5.7	2.1	細粒安山岩	–	–	160.4	撥形。表面に自然面を残す。横長剥片が素材。表・裏面ともに左右側縁に粗い加工が施され、全体に磨耗している。表面は擦痕が顕著である。	完存。

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	胎土	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
2	表採	土錘	5.8	2.3	0.35	白・黒・茶色粒	良好	褐灰色	29.6	ユビナデ成形。上部円孔は下部円孔より大。	完存。

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
3	表採	須恵器　横瓶	–	–	(7.5)	白・橙色粒、 小礫	堅緻	褐灰色	内外面ともにロクロナデ。	閉塞側面破片。 内面粘土帯。
4	表採	羽釜	(20.1)	–	(17.9)	白・黒・茶色粒、 チャート	酸化焔 良好	橙色	外面ロクロナデ後胴部中位以下ヘラナデ。内面ロクロナデ。	口縁～胴部1/2残存。
5	表採	羽釜	(17.4)	–	(21.5)	灰・黒色粒、 石英	中性焔	にぶい黄橙色	外面ロクロナデ後鍔部以下斜位ヘラナデ。内面ロクロナデ後ユビナデ。 鍔部径（22.6）cm。胴部下位疇粘土付着。	口縁～胴下位1/4残存。

Ⅵ　まとめ

房丸桜町遺跡における今回の発掘調査では、小規模な発掘調査ながら多数の遺構が検出された。中でも、Ｘ－４号跡は最下層に炭化物純層が検出され、残存率の高い灰釉陶器や須恵器の供膳具が集中的に出土した。この遺構は地形的・歴史的な要因と緊密な関係の中で形成されたと考えられる点において、本遺跡を特徴付ける調査成果のひとつといえる。そこで本章では、このＸ－４号跡について、立地環境や歴史背景、遺構の構造から若干の考察を行うことによって、まとめとしたい。

まず立地環境について。Ｘ－４号跡が形成された本遺跡の周囲を概観すると、東には藤川、西には端気川が南流し、中小河川に囲まれた低地で島状に残された微高地端部に位置する。低地という条件上、現在の景観がＸ－４号跡が形成された時期の様相を直接的に反映しているとは考え難く、実際にＨ－１・２号住居跡とした遺構などは河川の旧流路に起因する黒色土層の誤認である可能性が払拭できないわけだが、一方でこの房丸の微高地は中世には環濠遺構群が形成され、また調査では古墳時代中期のＨ－５号住居跡なども確認されており、巨視的にみて河川の流路変更にも堪え得る安定した土地として理解できるわけであり、先述したＸ－４号跡の立地環境に概ね齟齬はないものと考えられる。

次に、Ｘ－４号跡の時期と構造について。まず時期については底面直上に形成された炭化物純層の層中や直上から灰釉陶器の碗や皿が出土している。２の皿の高台は低くシャープな三日月高台で胎土の特徴から美濃窯の編年に対応を図れば、概ね光ヶ丘１号窯式期に相当する。また１の碗の高台は２の皿より新相を示し、胎土の特徴から美濃窯の編年に対応を図れば、光ヶ丘１号窯式期後段階ないしは大原２号窯式期前段階に相当する。また炭化物純層中には小破片だが頸部が内屈傾向にある、いわゆる「北武蔵型コの字甕」が含まれていた。これら出土遺物の傾向はＸ－４号跡が、概ね９世紀末～ 10 世紀初頭に形成されたことを示している。次に構造だが、全体としては浅い皿状の落ち込みの南西側に深い溝が付属する形態を呈す。最も目に付くのは落ち込みの最深部で面的に広がる炭化物純層であり、遺構の底面に沿って 10cm 前後の厚さでレンズ状に形成されていた。炭化物純層の範囲はＸ－４号跡に付属する溝直上に重複しているが、この溝に沿って流出したような分布状況は示さない。しかし一方で、溝自体の最下層には部分的に砂質土の薄層が存在し流水の痕跡と考えられることから、水は炭化物純層の形成された落ち込みの最深部で滞留する状態にあり、ここからオーバーフローするような状態で付属溝を北東から南西へ流れていたもの推定できる。

構造を整理し若干の復元を行うと、調査区外の北側に展開するであろう湧水点の存在と貯溜機能、その導水施設としての付属溝として推測できるわけだが、その構造に最も近い施設としては水田経営において重要な利水施設である「溜井」の可能性が考えられる。類例としては、本遺跡に近い立地環境にある前橋市二之宮宮下東遺跡で調査された溜井「12 号井戸」と対比を図りたい。この「12 号井戸」はその名の通り、湧水を目的とした井戸に導水施設の溝が付属した形態をしているが、この井戸の上部構造に注目すると皿状に広く窪んでおり、冷たい湧水を一時滞留させる「温め構造」を有していることがわかる。また遺構の覆土には、純層ではないが炭化物や焼土が含まれているようである。二之宮宮下遺跡の溜井は８世紀後半の事例であるが、本遺跡Ｘ－４号跡と構造的な類似点は多いといえるだろう。

以上、類例の対比からＸ－４号跡を溜井の一部と仮定し、これを本遺跡の該期における歴史的景観の中に還元してみたい。該期において本遺跡周辺の低地には広大な条里水田が施工されていたことが判明しているが、このような大規模な水田経営の根幹には周囲を流れる中小河川の水利の整備がある。その中で９世紀末～ 10 世紀初頭に至り、Ｘ－４号跡のような小規模な溜井が補完的に形成される背景には条里水田の水利システムの弛緩を挙げることも、あながち不自然ではないのではなかろうか。

いずれにしても、今回の調査ではＸ－４号跡の極末端の一部を調査しえたのみであり、そもそも本遺構が「溜井」であるのかどうかと言う点も含め、今後の周辺調査に期待するほかにない。

最後に改めて、房丸桜町遺跡の発掘調査に深い理解とご協力を頂いた方々、調査から整理作業に関わった作業員の皆様、報告書作成に関して貴重なご助言とご指導を頂いた方々に、敬意と感謝を表しおわりとしたい。

参考文献

内田憲治 1985『峯岸遺跡　－里棲み集落の発掘調査－』　新里村教育委員会
大西雅広ほか 1994『二之宮宮下東遺跡』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団

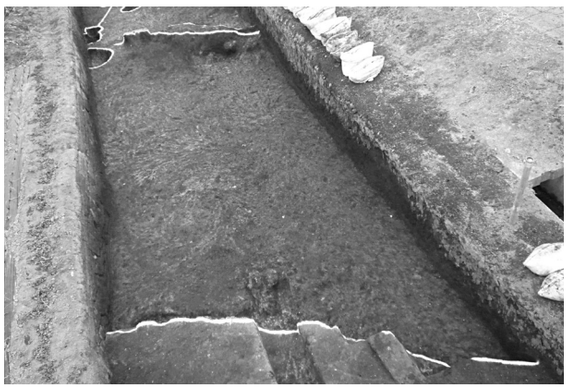
C区全景（上が東）

D区全景（上が西）

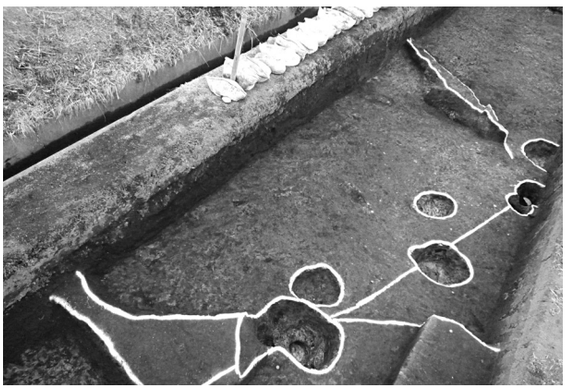
PL.2

B区全景（東から）

C区西側拡張部全景（東から）

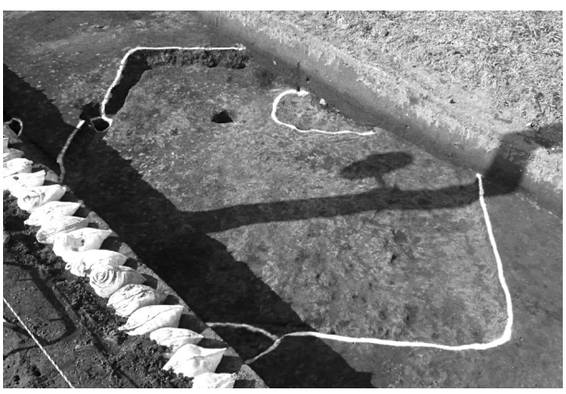


H－１号住居跡全景（西から）

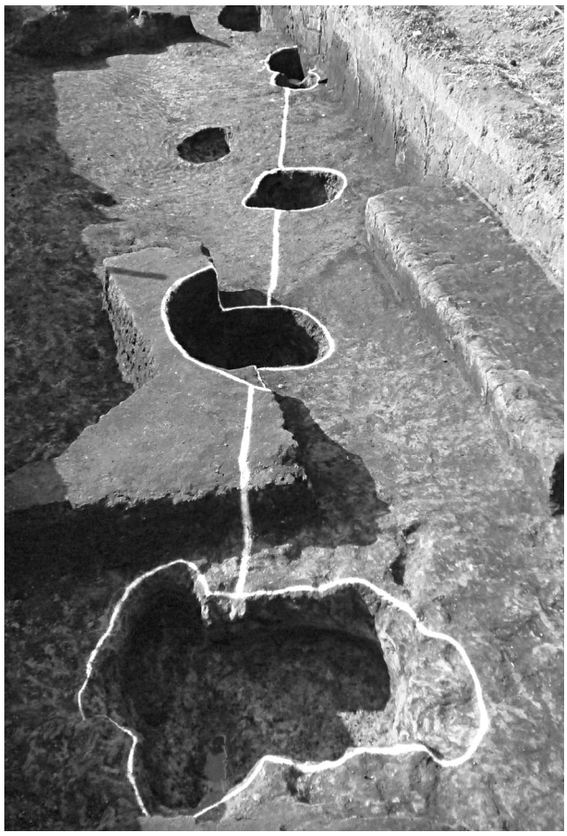


H－２号住居跡全景（北東から）

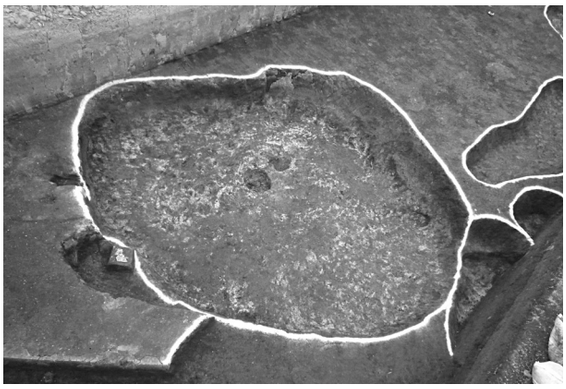
H－３号住居跡全景（南東から）



H－５号住居跡全景（南東から）

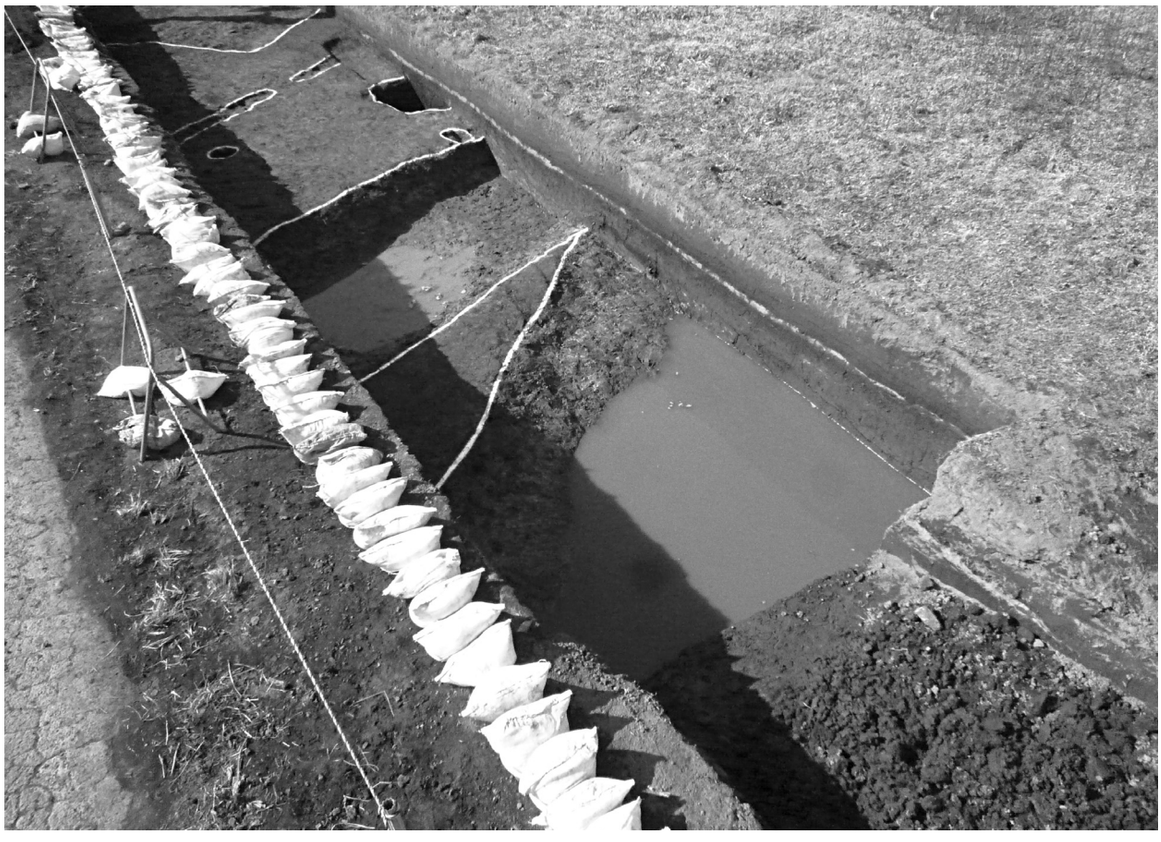


Ｂ－１号掘立柱建物跡全景（東から）



Ｔ－１号竪穴状遺構全景（南西から）

Ｗ－８号溝全景（南から）

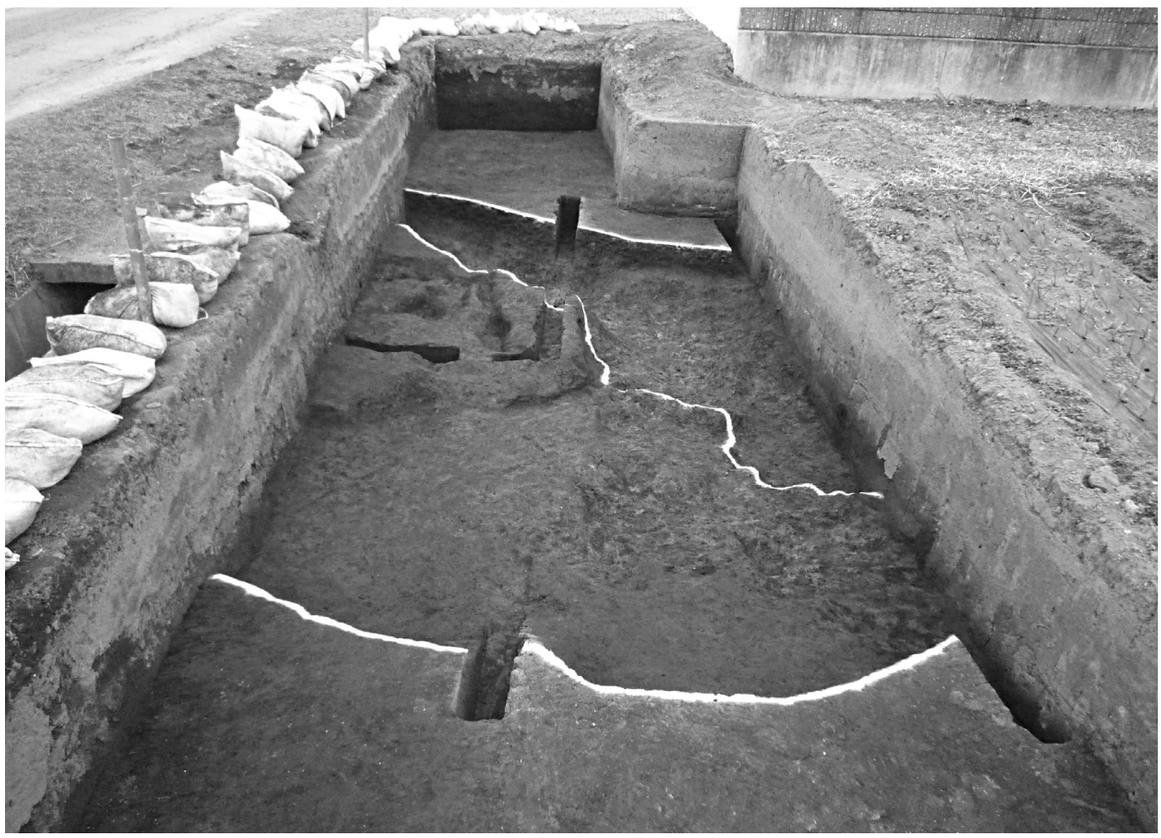


Ｗ－13・14号溝全景（南東から）

PL.4

Ⅰ－１号井戸全景（南東から）

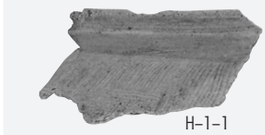
Ⅰ－２号井戸全景（西から）

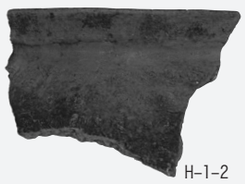


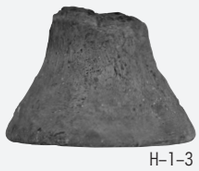
Ⅹ－４号跡全景（東から）

Ⅹ－４号跡遺物出土状況（北西から）

Ｃ区作業風景（東から）


H-1-1


H-1-2


H-1-3

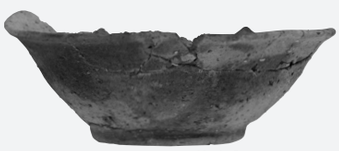
H-2-1

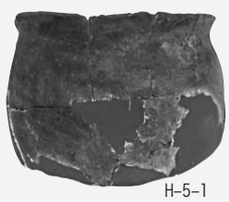
H-2-2

H-2-3

H-2-4

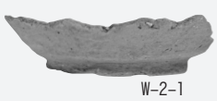
H-3-1

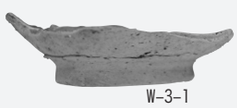

H-4-1

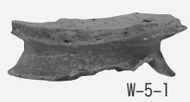

H-5-1

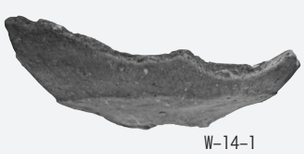
H-5-2

W-1-1


W-2-1


W-3-1


W-5-1

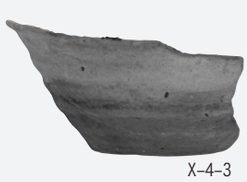

W-14-1

W-14-2

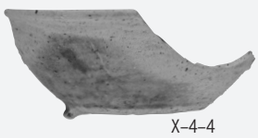
W-14-3

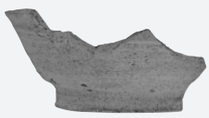
X-4-1

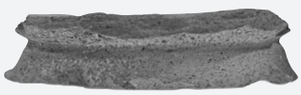
X-4-2

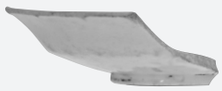

X-4-3

PL. 6

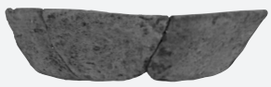

X-4-4


X-4-5


X-4-6


I-1-1

I-1-2

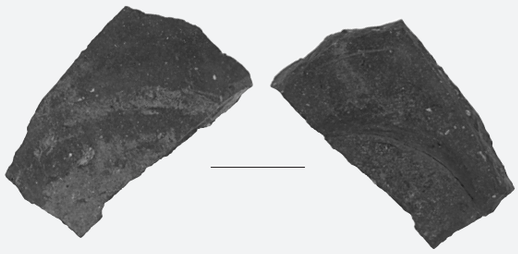

D-1-1

D-3-1

D-4-1

遺構外-1

遺構外-2 (1/2)


遺構外-3

遺構外-1 (1/4)

遺構外-2 (1/4)

報 告 書 抄 録

フ リ ガ ナ	ボウマルサクラマチイセキ
書 名	房丸桜町遺跡
副 書 名	地域活力基盤創造交付金事業（市道00 - 104号線歩道整備工事）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編 著 者 名	神宮　聡・中村　岳彦・佐野　良平
編 集 機 関	技研測量設計株式会社
発 行 機 関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
発行機関所在地	前橋市三俣町二丁目10-２
発 行 年 月 日	西暦2010年３月12日

フリガナ	フ リ ガ ナ	コ ー ド		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所 在 地	市町村	遺跡番号	北 緯	東 経			
ボウマルサクラマチイセキ 房丸桜町遺跡	マエバシシボウマルマチ 前橋市房丸町 19-2ほか	10201	21G69	36° 20' 10	139° 6' 50	20090118 ～ 20090223	460㎡	地域活力基盤 創造交付金事業

所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主な遺物	特 記 事 項
房丸桜町遺跡	集落跡 その他	古墳・平安時代 中世	竪穴住居跡　５軒 竪穴状遺構　１基 掘立柱建物跡　１軒 溝　15条 土坑　４基 井戸　２基 ピット　20基 性格不明遺構　４基	灰釉陶器 須恵器 土師器	

房 丸 桜 町 遺 跡

2010年３月５日　印刷
2010年３月12日　発行

発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町２丁目10-２
TEL　027-231-9531

編集　技研測量設計株式会社
印刷　朝日印刷工業株式会社